

[一般教養科]

[区 分 A]

鹿毛 敏夫

近世天文学史における麻田圃立～観測活動と『先事館』の評価～

鹿毛敏夫

新居浜工業高等専門学校一般教養科

口本歴史（日本歴史学会）、第684号、pp36-50、（2005.5）

近世後期の天文科学者麻田圃立による約40年間で50件に及ぶ口・月両食の観測記録を分析し、観測地の変遷が示す観測環境の空間構造と、観測活動や観測記録そのもののもつ歴史的意義について考察した。麻田の天文学は、宝暦・明和年間に依拠していた伝統的な中国・日本の天文学から、安永年間以降には西洋天文学に基づくものへと変化しその圃期は安永4年前後に求めることができた。また、オランダ人がもたらした反射望遠鏡を入手した安永7年には、彼の興味は暦算天文学の範疇を越え、自然学的天体論の領域へと向かいかけていた。麻田が残した50件の観測記録は18世紀後半の口本における貴重な口才月食連続観測記録であり、特に大坂における安永4年の観測活動は数名の門人を伴うグループ観測として実施されており、そこに天文塾先事館の草創の姿を確認することができたとともに、寛政年間には異なる4地点で同時観測を行い、そのデータを持ち寄る組織的観測を実施した事実が明らかになった。

[区 分 B]

鹿毛 敏夫

戦国大名の外交と都市・流通～豊後大友氏と東アジア世界～

鹿毛敏夫

新居浜工業高等専門学校一般教養科

思文閣出版、（2006.2）

海に国境がなかった日本の中世において、列島各地の地域経済は東アジア世界における交通・流通の循環構造に大きく組み込まれていた。なかでも特に、日本列島の南端に位置する九州という小島は、東シナ海を取り囲むように地理的に形成された諸地域と有機的に結び付きながら、国際性豊かな地域性を育んできた。本書では、西日本の戦国大名のアジア外交の実態とそこに潜む意識構造について解明するとともに、政治・経済・文化的にアジア諸国と緊密な関係にあった西国大名による都市・流通政策の実態を構造的に明らかにした。

森長 新

セミナー万葉の歌人と作品 第11巻 東歌・防人歌 後期万葉の男性歌人たち

「大伴三中の歌」(森長)

森長 新*、ほか22名

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

和泉書院 2005年5月20日

万葉の歌人の一人である大伴三中の人物を紹介するとともに、その作品について、研究史をふまえた上で持論を展開した。

[区 分 C]

谷本 修治

組織事故と組織文化

谷本修治*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校組要第42巻, pp47-53, (2006.1)

組織事故とは、組織全体の多様な要因に起因する事故のことをいう。組織事故は、まれにしか起こらないが、いったん起こるとその結果は壊滅的になる。そうした組織事故を防ぐためにさまざまな対策がとられるが、その対策は、組織の体質的なものである組織文化にかかわるものでなければならない。つまり、「組織と個人が安全を最優先する気風や気質」である安全文化が組織文化として組織に定着していることが重要である。

本論では、組織事故一般を組織文化の観点から考察し、組織事故とは、組織事故を防ぐための設計思想、防護はなぜ破られ潜在的危険が顕在化するのか、組織文化とは、組織文化が安全文化であるためには、と論じた。

野村 真理子

日本人英語学習者の発表語彙の使用状況—動詞の使用状況の変化に焦点を当てて

野村真理子

新居浜工業高等専門学校一般教養科

鳴門英語研究、第19号、pp.195-210、(2006.3)

1つの理想的な英語学習集団を分析対象として、保存されているスピーキングに関する学習データ（スピーチ原稿及びスピーキングテスト）を用いて、学習者の発表語彙の使用について、使用頻度の高い動詞に焦点を当てて、その使用状況の変化を量的及び質的に分析した。

鹿毛 敏夫

雪舟・狩野永徳と豊後大友氏～絵師からみた「大友文化」～

鹿毛敏夫

新居浜工業高等専門学校一般教養科

大分県地方史（大分県地方史研究会）、第194号、pp32-59、(2005.7)

本論文では、日本中世の各時期に活動した絵師たちと守護・戦国大名権力との開わりについて考察した。15世紀日本画壇のなかで水墨画を完成させた雪舟等楊は、明から帰国の後、豊後府内にアトリエ「天開図画楼」を設けて作両活動を行った。その創作活動は、幕府遣明船団のなかに自らの大名船を仕立てる政治・経済力を有した守護大名大友親繁の庇護のもと、豊後万寿寺の桂庵玄樹ら同じ渡明経験をもつ禅僧との交流活動の上に展開されたものであった。また、16世紀の日本画壇をリードした狩野派絵師においても、桧栄や永徳、宗秀が大友義鎮統治下の豊後を訪問し、そこに滞在する渡来系中国人との交歓活動を進めながら大名館や城郭の障壁画を制作していった事実が明らかになった。

鹿毛 敏夫

秀吉と宗麟～天正14年4月6日の密談～

鹿毛敏夫

新居浜工業高等専門学校一般教養科

津久見史談（津久見史談会）、第10号、(2006.3)

天正14年4月6日、九州の戦国大名大友義鎮(宗麟)は瀬戸内海を船で大坂に渡り、大坂城で豊臣秀吉と

会見した。東京大学史料編纂所が蔵する「大友家文書録」影写本中に残る当日の記録史料を分析して、両者の会談をめぐる心理的かけひきや、会場となった草創期大坂城の内部構造（黄金の茶室、天守閣、秀吉愛用のダブルベッド等）、及び会談のもつ歴史的意義について明らかにした。

野田 善弘

民国時代の東南大学について（下）

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

東洋古典学研究 第19集, pp55-85, (2005, 5)

本稿は、中華民国時期東南大学の主要知識人を取りあげ、その生涯と思想の概要を示し、さらに東南大学の歴史的意義について考察したものである。

東南大学の知識人は「学術」派の存在から守旧派のイメージでとらえられるが、実際には「少年中国」派の論客もいて、多様な思想が混在しつつ融和していたこと、また東南大学の「通識教育」の伝統は、現代中国の大学教育に大きな影響を与えていることを指摘した。

なお、本稿は科学研究費補助金「東南大学知識人の思想に関する研究」（若手研究B）の成果の一部である。

野田 善弘

中国の史学について（一）－『現代中国学術論衡』訳注稿

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要 第42巻, pp76-82, (2006)

本稿は、銭穆著『現代中国学術論衡』に収められる「略説中国史学（一）」を邦訳・注釈を加えたものである。

本文は単なる中国史概説ではなく、歴史家の視点から現代社会の諸矛盾を解決しようという企図をもっている。銭穆が中欧忿怨の「天下」の観念を現代世界に復活することを提言するのは、その一例である。歴史学はまさに未来を開く学問なのである。

井上 嘉仁

Nikeの反論は営利的言論か公典的言論かが争われた事例

井上嘉仁*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第42巻, p55-3, (2006.1)

企業の発言は、多かれ少なかれ、その製品の売上に影響を与える。この点に有限すれば、企業の言論のほとんどは営利的言論と性格づけられることになる。従来表現の自由理論によれば、営利的言論はより小さな価値しか待っておらず、保障の程度は低くなると論じられることになる。

一方で、企業言論は社会的・政治的メッセージを内含することもあり、公共的討論の醸成に大きく貢献している。公共的言論となれば、手厚く保護される可能性が高まる。

表現にかかる二面性をもつことは稀ではない。本稿では、労働環境の劣悪さを指摘されたことに対して反論したNikeの言論に、不正競争防止法、虚偽広告規制判決が適用されるかどうか争われた事件を分析し、営利的言論と公共的言論との区別の限界を示唆した。

（区 分 E）

鴻上 政明

全校一斉英語学力試験結果分析

鴻上政明*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

平成17年度 四国地区国立高等専門学校教員研究会報告書, pp14-15, (2005.7)

英語学力向上策としての全校一斉学力試験の実施目的は外部試験を導入して、英語の実力を把握することである。全校一斉試験により、学年による成績を把握できたし、学生個人にとっては、同じレベルの試験を受けることで、自分の到達度を測ることができるので励みになる。個人票により、分野別の得点を把握できるので、学生自身の英語学力試験への関心が高まった。

平成16年度から、全校一斉英語学力試験（実用英検準2級の過去問）を年2回実施している。試験結果を分析すると、合格ラインと思われる60点以上の者の数は余り変わらないが、特に70点以上を取った学生数は29名から47名へと大幅に増えてきた。このことから、成績上位学生の意識が高まったと思われる。最も成績の悪い分野は語彙と語順に関する問題であるので、「英検準2級DAILY20日間集中ゼミ」を全校生に持たせて。授業や試験に採り入れている。今年度から英語3の授業では、英語の語順に則った英作文指導をしている。

試験の結果わかった不得意分野を授業でどのように採り入れていくかが今後の課題である。また、最も大きな問題はどの試験問題を選ぶかということである。

鹿毛 敏夫

雪舟・狩野永徳と豊後大友氏～絵師からみた『大友文化』～

鹿毛敏夫

新居浜工業高等専門学校一般教養科

広島史学研究会大会（広島大学）、（2005.10）

1998年に発見された戦国大名大友氏の釣跡では、その後も継続的に考古学的調査が続けられ、15・16世紀の大名館の庭園や土塁遺構をはじめとする多くの遺物が発掘され、遺跡は国指定史跡として保存・整備されることになった。将来的に続けられていく大友館の歴史的復元作業の一環として、本報告では、館の襖や壁に描かれ床の間に飾られていたであろう障壁画や唐絵の様相について、わずかに残されている文献史料を読み解きながら、その実態を明らかにした。

野田 善弘

遠藤石山の思想―幕末明治時期新居浜の漢文文化について―

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

第51回中国四国地区中国学会（於愛媛大学 2005年5月）

明治時代、新居浜に漢学塾稽崇館を開いた教育者遠藤石山について、新居浜市立図書館に所蔵される『石山遺稿』（広瀬満正編）をもとに、その師承と交遊を明らかにし、さらにその儒学思想の立場について論じた。

野田 善弘

紹介・愛媛の史跡【依頼講演】

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

第51回中国四国地区中国学会（於愛媛大学 2005年5月）

本学会を主管した愛媛大学の依頼に応じて、愛媛県内に残る漢学史跡をスライドで紹介し、その概略を説明した。